

# 課題解決型高度医療人材養成プログラム 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔 取組 1 〕 医師・歯科医師を対象とした事業  
( 3 ) 健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成

整理番号

14

申請担当大学名 ( 連携大学名 )	岡山大学 ( 北海道大学、金沢大学、大阪大学、九州大学、長崎大学、鹿児島大学、 岩手医科大学、昭和大学、日本大学、兵庫医科大学 ) 計 11 大学
事業名	健康長寿社会を担う歯科医学教育改革
事業責任者	歯学部長 窪木 拓男
事業の概要	
<p>実績のある国立大学歯学部と医学部を擁する私立大学歯学部、特色ある医学部歯科口腔外科が協力して、各大学における医療系学部の協力のもと、縦割りを排した新しい次元の医科歯科連携教育や在宅歯科医療学を構築、それを全国レベルで均てん化する。加えて、東京大学 死生学・応用倫理センター、高齢社会総合研究機構の協力のもと死生学や地域包括ケアに関する教育を導入する。また、東京都健康長寿医療センター、国立長寿医療研究センターの協力を得て、認知症等に対する最新の知識と歯科的対応を系統立てて学べるようにする。その結果、適切な死生観に基づき、患者の病床、介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。また、口腔から全身健康に寄与でき、急性期、回復期、維持期、在宅介護現場に対応できる歯科医を育てる。更には、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進する。</p>	
推進委員会からの主なコメント : 優れた点等、 : 充実を要する点等	
<p>超高齢社会の日本で、今後、全身や在宅介護、終末期の口腔ケアは更に重要性を増すため、課題の必要性は評価できる。</p> <p>特に、これまで不足していた死生学の教育に着目し、かつ関連する研究施設等からの人材を効果的に配置したカリキュラムの発想は優れている。</p> <p>医学部口腔外科学講座など、歯学部を持たずに周術期口腔管理を行ってきた大学と連携して、新しい歯科教育の仕組みを取り入れている点は、高く評価できる。</p> <p>新たに構築する教育プログラムについては単位を設定しており、カリキュラム中における位置づけが確立しているは評価できる。</p> <p>連携校が多いため、机上の空論にならないよう、緊密な連携体制を構築する必要がある。</p> <p>備品の整備に時間を要する計画になっているが、連携大学における事業の実効性を確保するために、可能な限り速やかな整備に努めることが求められる。</p> <p>座学やDVD、e-learning による学修が多いが、終末期や要介護高齢者との接触を含む臨床体験が非常になることから、実習の充実化が必要。</p> <p>成果を確実に上げるために、より明確な目標及び指標を設定することが望ましい。</p>	